

いる餓死供養塔は、当時、仙在の境に流民を救済する藩のカユ小屋が設けられ空腹にカユを食って逆に死ぬ者が絶えなかったからだ。仙台洛中洛外の境には、このような悲しい歴史が秘められている。』

資料 仙台市史第1、8巻（仙台市）
郷土史仙台耳ぶくろ（三原良吉）
宮城県史第32巻（宮城県）

35. 「家の女房」とは

問 伊達家の系図を見ますと、例えば政宗の4男宗泰や6男宗高の生母が、いずれも「家の女房」としてあります。代々の藩主の公子公女についても、同様に記されている個所が随分あります。「家の女房」とはどのような人をいうのですか。

答 「家の女房」とは、もとは貴顕の家に仕える侍女をいったのですが、次第に公家の側室を指すようになり、やがてこれにならって武家の側室をもそのように呼ぶようになったのです。例えば「藩翰譜」第1巻（新井白石）の中にも、次のような記載が見られます。

『越前家

三河守殿〔結城秀康〕ハ徳川殿〔家康〕ノ第二ノ御子御母家ノ女房（下略）』

これを「徳川諸家系譜」第1（続群書類従完成会編。底本：内閣文庫所蔵「徳川幕府家譜」（内題「御家譜」）・「柳宮婦女伝系」）の相当する個所に当たりますと、

『秀康卿

（前略）御母於万之方（家康妾永見氏）（下略）』とあり、「家の女房」とは、いわゆる「側室」であることがわかります。

さて、伊達家の系譜には、「伊達家系譜」（「仙台人名大辞書」（菊田定郷）・「宮城県通史」（清水東四郎）などに収録）⁽¹⁾のような原初の形と見られるもの、次にそれを基礎にして幕府に書上げた「伊達家家譜」（「寛政重修諸家譜」に収録）⁽²⁾のようなかなり整理を加えたもの、更に「伊達略系」（作並清亮）⁽³⁾や「東藩史稿」⁽³⁾の公子公女伝のように後世入念に整備したものとがあります。それらを便宜に、A・B・Cの3類とし、要点を次表のように対比させますと、疑問点をよりよく氷解することができます。

第17世政宗 夫人田村氏愛姫

(4)

	A 類	B 類	C 類
一秀宗 (5)	母、家ノ女房飯坂氏	母、飯坂氏	母、側室飯坂氏
一五郎八 (6)	母、忠宗公ニ同シ	母、清顕が女	母、夫人田村氏
一第18世 忠宗 (7)	母、田村清顕ノ女 (8)	母、上に同し	母、夫人田村氏
一宗清 (9)	母、秀宗ニ同シ	母、秀宗におなじ	母、側室飯坂氏
一宗泰 (10)	母、家ノ女房	母、某氏	母、側室埴氏
一宗綱 (11)	母、忠宗公ニ同シ	母、長女におなじ	母、夫人田村氏
一宗信 (11)	母、家ノ女房	母、某氏	母、側室柴田氏
一宗高 (12)	母、家ノ女房柴田宗義ノ女	母、柴田氏	母、側室柴田氏
一牟宇 (13)	母、同上	母、上におなじ	母、側室柴田氏
一竹松丸 (14)	母、忠宗公ニ同シ	母、長女におなじ	母、夫人田村氏
一宗実 (15)	母、家ノ女房芝多常弘ノ姉	母、芝多氏	母、側室芝多氏
一女 (16)	母、家ノ女房多田吉広ノ女	母、多田氏	母、側室多田氏
一宗勝 (17)	母、同上	母、上におなじ	母、側室多田氏
一千菊 (18)	母、家ノ女房村上正重ノ女	母、村上氏	母、側室村上氏

注(1) p. 88の注(1)参照。

注(2) p. 49の注(2)参照。

注(3) p. 170の注(2)参照。

注(4) 奥州三春城主従五位下大膳大夫田村清顕の女、天正13年〔1585〕13歳の時政宗に嫁す。承応2年〔1653〕正月24日江戸で歿、86才、法諡して陽徳院殿栄庵寿昌尼大姉という。その生前2代忠宗一寺を瑞巖寺の傍に創建し、母夫人の修道場とした、これを陽徳院という。母公の歿後、陽徳院の後背に葬り廟を建てて宝華殿という。

注(5) 政宗の第1子。母は側室飯坂氏、天正19年〔1591〕12月柴田郡村田館（村田宗殖居城）に生れ、幼名を兵五郎という。文禄3年〔1594〕2月4日上洛、聚楽第に入る。慶長元年〔1596〕4月豊臣秀吉から偏名を授けられ秀宗と名乗り、従五位下侍従に任じた、時に6才。7年〔1602〕家康の命により江戸に人質として置かれた。19年〔1614〕12月28日2代将軍秀忠により伊豫宇和島10万石に封ぜられた。〔「寛永系譜」・「藩翰譜」に10万3千石と記す〕。元和元年〔1615〕2月28日京都を発して入国、8年〔1622〕遠江守に任ぜられ、寛永3年〔1626〕従四位下に叙せられた。明暦3年〔1657〕7月21日致仕して、家を嗣子大膳大夫宗利に継がしめ、3万石を割いて第3男宮内少輔宗純に与え別家とした、吉田3万石である。後将軍綱吉の時3万石を宗利に加増され、当初の10万石に復した。有名な忠臣山家〔やんべ〕清兵衛公頼は、政宗が特に秀宗に付けてやった

人物である。

- 注(6) いろは姫。政宗公女。文禄3年〔1594〕聚楽第に生れた、母は夫人田村氏。慶長4年〔1599〕正月越後少将上総介忠輝と婚約、今井宗薫媒酌。11年〔1606〕12月24日婚儀。18年〔1613〕忠輝に従って江戸を発し、領国越後高田城に入った。元和2年〔1616〕7月忠輝が飛騨国に流されたので離別、仙台に帰り、城の西隅に住み西館と称した。万治元年〔1658〕落飾して天麟院瑞雲全祥禅尼と号した。寛文元年〔1661〕5月8日歿、68歳、松島に葬り、後寺を建て、天麟院という。
- 注(7) p. 207の注(11)参照。
- 注(8) 三春城主。玄蕃允と称す。大膳大夫に任ぜられた。征夷大將軍坂上田村麿の後胤。永禄天正年中二階堂盛義と境を争う。その女愛姫を伊達政宗に嫁し、威武益々振張した。天正14年〔1586〕11月9日卒、三春福衆寺に葬る。清顕死して子なく、甥の宗顕が嗣いだすが早世して跡絶え、伊達氏がその所領を併せた。承応2年〔1653〕忠宗が、公子宗良をしてその名跡〔みょうせき〕を継がせた、陽徳夫人の懇請によるものであった。栗原郡三迫岩ヶ崎7千3百石を知行させたが、万治3年〔1660〕8月25日、將軍の命により伊達兵部宗勝と共に国事後見を命ぜられ、名取郡岩沼3万石を賜った。12月28日従五位下右京亮に任ぜられ、寛文10年〔1670〕隠岐守となった。延宝6年〔1678〕3月26日歿、42歳、一関田村氏の祖である。子従五位下因幡守建顕に至り封を西磐井郡一関3万石に移された。
- 注(9) 政宗公子、慶長5年〔1600〕生、母は側室飯坂氏。河内と称した。飯坂右近宗康の嗣となり、黒川郡吉岡館に住んだ。寛永11年〔1634〕7月22日歿、35歳。吉岡天皇寺に葬る。
- 注(10) p.66の注(6)をも参照。政宗公子、慶長7年〔1602〕伏見第に生る、母は側室塙田右衛門の女。8年〔1603〕11月玉造郡岩出山に知行地を授けられた。19年〔1614〕仙台城で元服、参河宗泰と名乗る。寛永4年〔1627〕12月28日従五位下に叙し参河守に任ぜられた。15年〔1638〕12月23日歿、37歳、岩出山実相寺に葬る。一門岩出山伊達氏の祖である。
- 注(11) 政宗公子、慶長8年〔1603〕江戸で生れた、母は夫人田村氏。18年〔1613〕茂庭綱元が政宗を迎えて饗応した時、随行して其の席で元服、摂津宗綱と名乗る。元和4年〔1618〕5月28日歿、16歳、仙台松音寺に葬る。
- 注(11) 政宗公子、慶長8年〔1603〕江戸で生れた、母は側室柴田氏。栗原郡三迫岩ヶ崎に知行を授けられた。元和元年〔1615〕10月元服、越前宗信と名乗る。寛永元年〔1624〕7月筑前と改称。4年〔1627〕歿、25歳、栗原郡岩ヶ崎黄金寺に葬る。
- 注(12) 政宗公子、慶長12年〔1607〕仙台城に生れた、母は側室柴田氏。元和4年〔1618〕11月26日仙台城に於て元服、右衛門宗高と名乗る。寛永3年〔1626〕7月10日従五位下に叙し、右衛門大夫に任ぜられた。8月17日京都要法寺で歿、20歳、柴田郡村田龍島院に帰

葬した。

- 注(13) 政宗公女、慶長13年〔1608〕仙台城に生る、母は側室柴田氏。元和5年〔1619〕2月10日石川駿河宗敬に嫁す。天和3年〔1683〕2月19日歿、76歳、伊具郡角田長泉寺に葬る。
- 注(14) 政宗公子、母は夫人田村氏。慶長14年〔1609〕3月18日歿、7歳、仙台輪王寺に葬る。菩提を弔うため後に寺を北八番丁に建て江巖寺と号した。
- 注(15) 政宗公子、慶長18年〔1613〕仙台城に生れた、母は側室芝多氏。小字喝食丸、長じて治部と称した。伊達安房成実が養って嗣とした。正保3年〔1646〕2月9日、養父成実が致死し宗実が相続した。承応元年〔1652〕3月19日安房と改称。寛文5年〔1665〕6月5日歿、53歳、亶理郡小堤邑大雄寺に葬る。
- 注(16) 政宗公女、元和2年〔1616〕仙台城に生る、母は側室多田氏。寛永4年〔1627〕11月14日伊達左衛門宗実に嫁す。12年〔1635〕4月22日歿、20歳、遠田郡涌谷円同寺に葬る。
- 注(17) p.71の注(3)をも参照。元和7年〔1621〕仙台城に生れた、母は側室多田氏。小字千勝丸。寛永9年〔1632〕11月16日元服、忠宗片名を授け宗勝と名乗り兵部と称した。正保2年〔1645〕12月晦、従五位下に叙し兵部少輔に任ぜられた。3代綱宗隠居の後、万治3年〔1660〕8月25日將軍宗勝に命じ、田村右京宗良と共に幼君綱村の後見たらしめ、磐井郡一関3万石に封じた。寛文11年〔1671〕4月3日、いわゆる寛文事件の罪によって土佐国に流され、延宝6年〔1678〕12月4日配所に於て歿した、57歳、土佐国長田郡小高坂邑吸江寺に葬る。宗勝の子宗興もまた父の罪に座し、11年4月3日豊前小倉に流され、元禄15年〔1702〕同所で歿、58歳。宗興の妹某は岩出山伊達弾正宗敏に預けられた。宗興の子3人〔千之助・千勝・右近〕は伊予吉田伊達家に御預けとなった。
- 注(18) 政宗公女、寛永3年〔1626〕仙台城に生る、母は側室村上氏。12年〔1635〕4月6日侍従京極丹後守源高国に嫁した。明暦元年〔1655〕8月7日江戸で歿した、30歳、丹後国宮津に帰葬。

資料 日本国語大辞典第1巻（小学館）

36. 御上・御上様、御下・御下様とは

問 「七ヶ宿町史」資料編の196 ページに、

『一 三石二十文 御上一人様

一 二石六十五文 御下一人様』とあるのはどういうことですか。日本史用語辞典にも出ていません。